

会議録

会議名	嵐山町総合戦略策定委員会(第5回)					
開催日時	平成27年10月21日(水)			開 会	10時00分	
				閉 会	11時10分	
開催場所	嵐山町役場 町民ホール					
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1)会議録の署名人の任命について (2)嵐山町人口ビジョン及び総合戦略(案)におけるパブリックコメントについて (3)嵐山町人口ビジョン及び嵐山町総合戦略(案)について (4)その他 4 閉会					
公開・非公開の別	公開			傍聴者数	1名	
非公開の理由						
委員出欠状況	会 長	内田 方巳	出	委 員	清水 正幸	出
	副会長	新井 茂	欠	委 員	佐藤 浩二	出
	委 員	根岸 福壽	出	委 員	鹿倉 貞二	出
	委 員	小林 莊治	出	委 員	荒井 忠正	出
	委 員	根岸 美津子	出	委 員	内田 裕一	出
	委 員	鈴木 浩	欠	委 員	青木 裕子	欠
	委 員	内田 奈芳美	欠	委 員	宮本 紀子	出
	委 員	山田 朋美	出	委 員	伊藤 浩次	欠
	委 員	山田 滋之	出	委 員	田中 操	出
事務局	担当課長 青木					
	担当副課長 伊藤					
	担当主査 松浦					
	(株)サバティサーチセンター 板倉・木谷					

次 第	顛末
1 開会	青木課長
2 あいさつ	<p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日が最後の会議となります。最近多くの方が総合戦略策定について話しているのを耳にしており、皆さんがこのことについて関心を持っていることを感じています。今回の会議で最終的な報告を行いたいと思います。皆さんの慎重なご審議の程をよろしくお願い致します。
3 議題	<p>(1)会議録の署名人の任命について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、今回は内田裕一委員と宮本紀子委員を議事録署名人とすることとなった。 <p>(2)嵐山町人口ビジョン及び総合戦略(案)におけるパブリックコメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を行った。 ・会長より質疑を求める。 <p>(宮本委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ページの2つめの意見の回答欄に「質の高い幼児期の学校教育」とありますが、どういう内容のものでしょうか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こちらは本計画ではなく、今年3月に策定した「子ども子育て支援事業計画」の中で、町の幼児期教育の方向性について記述した部分があります。そこに「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」というものが位置付けてられています。 <p>(宮本委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこから抜粋しているということでしょうか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうです。「子ども子育て支援事業計画」は、アンケートを実施し、学校、PTA、幼稚園、保育園等の関係者方により約1年半かけて策定したものでございます。子ども子育て支援事業で行っていく内容ということでご了承承りたいと回答したものでございます。 <p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私も学校評議員として、この問題について検討を重ねていますが、最終的に財政面での問題により議論が中断してしまうということがあります。これについては今後も検討をしていき課題解決に努めていきたいと思っています。

(宮本委員)

- ・ 1 ページの意見欄の「②嵐山町への来客数の増加をはかる」の中に、コーディネーターの人材の発掘についての意見が出されております。それに対して、嵐山町版地域おこし協力隊が地域資源をつなげ活性化していくという回答ですが、実際の実施になったときにコーディネーターも生きてくると他の人に説明しても構いませんか。

(事務局)

- ・ 嵐山町版地域おこし協力隊というものを来年度以降設置する予定でございます。この方たちがコーディネーターとしてあらゆる人たちをつなげて、地域資源のバージョンアップ、レベルアップを図っていくということで総合戦略の最初に掲げております。
- ・ 嵐山町の内にも様々なスキルをお持ちの方々が大勢いらっしゃいますので、そういった方々を嵐山町版地域おこし協力隊により様々な場面でつなげていければと考えています。

(内田会長)

- ・ 他にご意見はございますか。ご意見が無ければこれで了承とさせていただきます。

(3)嵐山町人口ビジョン及び嵐山町総合戦略(案)について

- ・ 事務局より修正案の説明を行った。
- ・ 会長より質疑を求める。

(宮本委員)

- ・ 62 ページの赤字で加筆されたところですが、地産地消、地産外消という言葉についてご説明いただいてもよろしいでしょうか。

(事務局)

- ・ 地産地消というのは、地元で作ったものを地元で消費しようというものです。地産外消というのは地元で作ったものを地元の外で消費してもらい、外のお金を地元に取り寄せようというものです。最近他の自治体においても地産外消の必要性が高まっています。

(宮本委員)

- ・ ありがとうございます。

(清水委員)

- ・ 同じく 62 ページの特産品開発事業の内容のところ、赤字で加筆された加工施設についてですが、食品メーカーのカット野菜や、ジャム製造などの 6 次産業化を前提とした加工施設を想定しているということでしょうか。

(事務局)

・6次産業化も含めた特産品の開発を行う過程の中で加工施設についても検討したいというもので、基本的には農業関係の加工施設でございます。

(佐藤委員)

・64ページに既存企業との共同事業がありますが、具体的にはどのようなものを想定しているのでしょうか。

(事務局)

・町内の企業より「優秀な人材の確保が難しい現状があるが、嵐山町の魅力を向上させることで、企業にとっても優秀な人材を集めることにつなげていきたい」という提案がありました。そこで町と企業がコラボレーションして嵐山町の魅力向上につながる新たな事業を行いたいというものです。

(佐藤委員)

・気を付けて頂きたいのは、働きたい人を集めて説明会を行う場合、やり方によっては職業安定法に触れる可能性があります。無料の職業紹介の形をとっている場合はよいのですが、無料という形でない職業斡旋行為ととられかねないので、説明会もしくは面接会を行いたいということであれば、ハローワークも参加させて頂ければ開催することが可能のため、ご相談頂きたいと思います。

(事務局)

・今回の基本的な考え方は、そのような説明会を開くのではなく、企業と一緒に文化事業等を行っていきたいと考えております。企業と共同で嵐山町のイメージアップを図り、優秀な人材を集めたいというものであり、基本的に人材募集を行うというものではありません。

(佐藤委員)

・人材募集という話が出た際には十分注意していただきたいと思います。

(荒井委員)

・今の件については職業安定所に依頼して、許可を取れば問題ないということでしょうか。

(佐藤委員)

・ハローワークが入るか、許可が必要です。許可を取るには様々な書類の提出が必要になります。

(荒井委員)

・実際に同席してもらえば、就職説明会を開催することは可能ということでしょうか。

(佐藤委員)

・そうです。

(荒井委員)

・就職説明会を行う場合、職業安定所も共同して開催すれば問題なく開催することができるということです。あまり難しく考えずに行うことが出来るのではないのでしょうか。

(事務局)

・就職説明会については、県や比企の近隣市町村と連携を取りながら行ってはどうかという考え方もあるので、実施する場合はご意見を参考に十分注意ながら行っていきたいと思います。

(内田会長)

・嵐山町ではイベント等に企業が多く参加しています。企業の力も取り入れて、一緒に町のPRを行っていただきたいと思います。

(内田(裕)委員)

・これで概ね概要が決定し、事業に関係する実施機関が詳細を詰めていくと思いますが、町民にこれからこのようなことを行うということをアピールして、多くの方に嵐山町はこのように変わっていくというイメージを持っていただきたいと思います。今後はホームページ等で公表されていくと思いますが、進行状況が分かるとよいと思います。

・この総合戦略の事業について、実際に国の補助金が出るのか、またそれがどのように使われていくのか、といったところも知りたいと思います。

(荒井委員)

・今のご意見は、具体的な内容についての話になりますが、策定委員会では具体的な内容についてまでは検討しておりませんので、そこだけは理解してもらう必要があります。具体的な内容となるとこれからになり、役所の中で構想を練って行うことになります。そのため、具体的なことまで、こちらから言うのは控えたいというのが私の意見です。

(事務局)

・アピールしていくのは大事なことだと思います。ホームページに関しては私どもの所管でございますので、ホームページについては取り組んでいきます。

・地域創生関係の補助金につきましては、現在では内閣府が財務省に対して概算要求が行われている情報が公開されています。予算額が全体で1,080億円ということで、全体事業費は2,160億円ということですので、1/2の補助金ということになっています。ただし、こ

れから国の予算編成により変わってくると思われます。補助要件については、まだ情報がきておりません。

- ・実際の事業の進行につきましては毎年検証していくこととしておりますので、その際ご意見を頂ければと思っております。

(内田(裕)委員)

- ・住民意識調査などでも交通が不便という意見が挙がっていますが、財政面での理由で困難というだけでなく、何かしら考えていると思いがいかでしょうか。
- ・子どもの遊び場も含めてですが、どういった遊び場が欲しいのか、町が考えるのではなく、親や子ども達にどういった遊び場が欲しいのか意見を出してもらい、それを活かせたらと思います。アンケートをとるだけでなく、それに対する検討、結果が出たということをアピールして頂き、もっと町民に教えて頂けたらと思います。
- ・パブリックコメントの中で2ページの下から2段目のアトピーについては「残念ながら把握できておらず」となっていますが、少なくとも幼稚園、保育園、小中学校はアンケートで集計ができるのではないのでしょうか。あとは保育園や幼稚園に行っていない子ども達を集計すれば把握は可能だと思います。そうすれば人口に対する割合を出して、国と比較してどれくらい少ないかということが数字で分かると思います。嵐山町は自然が多いのでアトピーが少ないと思いますので、そういったところをアピールできるのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・公共交通の関係で現在調査を行っており、結果は今後出てくることとなりますが、基本的なこととして全体的なニーズと個別のニーズがなかなか噛み合っていないのではないかと感じています。なお、公共交通については、ときがわ町のバス路線に対して町が一部補助を行っております。ご意見のありましたデマンド交通については、予算の関係もあり、もう少し検討する必要があると考えています。今後は財政的検討はもちろん、全体的なニーズと実際の利用している方のギャップという問題もあります。現在具体的な調査をしておりますので、どういう方々に交通で何が必要なのかをきちんと把握している状況です。
- ・遊び場については既にフィットネス 21 パークにおいて利用者調査を実施し、利用者の要望を把握した上で一部遊具を選定しております。また他の公園についても設置する場合、今後担当課において同様な方法による整備を検討しております。

- ・アトピーやぜんそくについては把握しないというわけではなく、指標化することが出来ないということです。ご意見の通り把握していく必要があると思いますので、担当課にお伝えさせていただきたいと思います。

(内田会長)

- ・何かご意見のある方はございますか。

(山田(朋)委員)

- ・全体的なことになりますが、この嵐山町のことを考えたらお金をかけて様々な事業を行っていくということはとても難しいと思います。人口が少なくなる中で収入も少なくなるわけですから、大きな自治体とは絶対に同様にはできません。現在、嵐山町にあるものを活かして、いかにお金をかけずにやっていくかというのが全てに通じると思います。その中で大事なものは人です。元気な高齢者の方や家庭にいる主婦の方で、呼びかけに応じてくれる方は沢山いると思います。そういった財産を活用出来るような方向性を見出していかないと、人口を増やすといっても無理があるような気がします。少ない人口の中で嵐山町が上手く生活していけるような環境を作っていくことが大切です。
- ・私は教育委員をやっておりますが、教育を大切にしてお人を育てていかないと嵐山町は続かないと感じます。自分たちの将来に、どのようなことを目標にして生きていくのかということをお教える必要があると思います。お金の面で豊かというだけではなく、家族が地域で仲良く生きていくという姿が人としての本来あるべき姿であるということをお教えることで、人とのつながりがある嵐山町は素晴らしいとなっていくのではないのでしょうか。人と人との交わりが大切であるということは家族にも言えると思います。家族で親を大事にし、子を大事にし、おじいちゃんおばあちゃんを大事にし、孫を大事にするというつながりが無かったら、人のつながりは広がらないと思います。
- ・今は躰も含めて学校が入ってきている時代ですが、学校が家庭に子どもを育てることは大切なことだということをお教える必要があると思います。お金を与えて好きなものを買ってあげることが教育ではありません。私自身、ただ孫に好きなものをお買ひ与えるのではなく、それが本当に必要なのか、親が何かをお買ひ与える場合にはそれでいいのか、と一声かけるようにするなど、自分にできることを探しながらやっております。
- ・嵐山町独自の方法を探し出して、嵐山町はこういう方向でやってい

くというのを考えていく必要があると思います。しかも少ない人口、少ない予算の中でいかに出来るかということが大事になってくると思います。そこで人と人とのつながりが大事になってくると思います。教育委員会でも教育大綱を策定する中で色々と話し合いをしています。嵐山町の町民憲章が素晴らしいということが挙がっております。あのよう子育てや人とのつながりが出来れば素晴らしいと思います。そしてそれぞれの立場の人たちが、自分に何が出来るのか勉強していかなければいけないと思います。

(内田会長)

・他にご意見等ございますか。

(意見等無し)

・もしもご意見が無ければこれで決定したいと思います。

(宮本委員)

・お助けサービスという事業がありますが、「お助け」というと上から目線のような感じがします。お助けサービスが必要な人と必要とされている人との関わり合いの中で進められていく事業なので、「助け合いサービス」という言葉を提案したいと思います。「してあげる」「助けてあげる」というのではなく、必要な所に必要な人が行くという相関関係の中で行う共助の事業だと思いますので、可能でしたらお助けサービスではなく、助け合いサービスにしていだければと思います。

(事務局)

・すでに既存の事業ですので、今のご意見につきましてはこのような意見があったということで、事務局の方から所管課にお伝えしたいと思います。

(荒井委員)

・私どもの社会福祉協議会の事業ですので、事業名については考えたいと思います。今のお助けサービスという名称は上から目線ではないかというご意見ですが、決してそうではありません。また事業名のサービスの部分が前面に出てくると、利用者からは何でもしてもらえろという印象になってしまいます。もサービス感覚が出てきてしまうので、名前の使い方も考えないと実際行う際に問題も出てきます。

(宮本委員)

・事業内容は素晴らしいものと思っています。

(4)その他

	<p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他で何かございますか。 <p>(根岸(福)委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嵐山町の活性化についてですが、駅前の空き店舗や空き家において何かをやる場合に、町から補助金を出すという考えはあるのでしょうか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既にそのような話があり町も検討しておりますが、財政的な問題がどうしても出てきます。こちらの総合戦略においても空き店舗対策は入れておりますので、今後は活性化チームも含めて検討し、駅前の活性化を行っていきたいと思います。 <p>(根岸(福)委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前をにぎやかにするには一歩前を出ていかなければ、活性化は出来ないと思います。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見をいただきながら進めていきたいと思います。 <p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これにて5回にわたり開催いたしました策定委員会ですが、これにて終了となります。長い間ありがとうございました。
4 閉会	青木課長
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>平成27年11月 30日 署名委員 <u>内田 裕一</u></p> <p>平成27年11月 26日 署名委員 <u>宮本 紀子</u></p>	